

通院も小学校卒業までを助成対象にしてください！

…上野こうえつ議員団事務局長を含め議員団全員で市に要請

幼児医療費助成制度の拡充は 県民世論に応えたもので歓迎

マスコミでも報道されているように、泉田裕彦知事は十一日、乳幼児医療費助成制度の「入院」の対象年齢を、現行の「四歳未満」から「小学校卒業まで」に引き上げることが正式に表明しました。この問題で日本共産党は、県議会においては五十嵐完二県議が十数回に及ぶ質問で実現を迫ってきました。また報道にもありますように、県医師会や新日本婦人の会なども要望を重ねていました。今回の泉田知事の拡充表明は、こうした県民世論に応えたもので歓迎すべきものです。

上越市議会でも党議員団が 助成拡充を求めて繰り返し要請

上越市においても樋口良子議員が一般質問で拡充を何回も求めてきました。昨年9月議会では杉本敏宏議員が、「小学校卒業までの拡充」を主張し、実現を求めています。その際、木浦市長は、「就学前までの平成20年度からの拡充」を明らかにしていました。

こうしたなか日本共産党上越地区委員会(阿部正義委員長)は十七日、木浦上越市長に対して、乳幼児医療費の助成拡充を求めて要請を行いました。具体的には、①現在、「6歳未満」となっている通院に対する助成制度を、「小学校卒業まで」に拡充すること。②一部負担金についても助成し、真の乳幼児医療費無料化を実現することの2項目です。

通院での拡充要望は切実

今回の要請には、樋口良子地区常任委員、上野こうえつ、杉本敏宏両地区委員、ならびに橋爪法一市議が参加しました。上野地区委員などは、「今回の県知事の拡充表明で状況は大きく変わった。市の予算編成作業では、県の今回の決断は予想外だったはずだ。県の『入院は小学校卒業まで助成する』という施策に対応した拡充策を」「入院に至らないうちに手当することが大事。通院での拡充要望は切実だ」などと発言し、積極的な対応を求めました。



写真は吉川区川谷地区の冬祭りで
ジャンケンゲームを楽しむ子どもたち

木浦市長に代わって対応した中川助役は、「みなさんがこれまで熱心にごつてこられたことは分かる。市長もこれまで何回も県に働きかけてきたし、市長会でもとりあげてきた。今回の県の突如の対応には驚いているが、皆さんの要望は市長にしっかり伝えて対応してまいりたい」と答えました。新年度の市の予算がどうなってくるか注目です。



申し入れをする上越市議員団と対応する中川助役(右手前)

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 78 2007年1月21日
 連絡先 杉本敏宏 524-3787 (東本町5)
 樋口良子 544-6802 (中門前3)
 橋爪法一 548-3628 (吉川区代石)
 事務局長 上野公悦 530-2203 (頸城区中柳町)